

双葉町復興まちづくり計画案に盛り込むべき内容について
～委員からの提案(生活再建部会分)～

委員氏名	1 計画の基本理念やキャッチフレーズ	2 その他計画に盛り込むべき内容
井上 六郎	<p>* 絆を深めるふたば町 家族・町民・地域社会・県・国・世界と発展していくであろうことを絆を生活の理念として</p>	<p>「仮の町」一局集中型・分散型なのかどちらを選択しても長短があり苦慮するところである。したがって大きな町・小さな町・その中間的な町くらいの町に絞り拠点地を設定し住みたいところの希望をアンケートの資料によって分かるのではないかと。ある程度の目安を何年で帰れるのか、帰れるためのインフラ整備はどうなっているのか、線量の低減の推量などを示すことも必要ではないかと。それによって、施設・建築物・規模などがわかりやすくなっていくと思う。</p>
笠原 真一	<p>* 故郷と町民をつなぐもの</p>	<p>数回の議論に出席して思いました。県内にもどる人、戻らない人。2つの大きな問題がありますが、そこからさらに枝分かれして様々な問題点が出ました。話が大き過ぎて一つ一つ解決するにはまだ時間がかかります。</p> <p>しかし両極の意見を持つ委員さん達の共通な思いが一つあると思いました。それは「双葉町を残したい」思い。そして「お墓」の話が出ました。これだと思いました。まず出来る事があるとすれば、町民の共通の思い「お墓」の再生が最優先ではないでしょうか。復興委員会の一つ目の成果としてお願いします。年に1回、2回でも双葉町には戻りたいと私も思います。もう一つの「つなぐもの」として思うのが、学校の再生。それも県内に双葉の名を残してほしいです。希望者が一人でもいればそれは成り立つという町から回答がありました。</p> <p>「お墓」とともに「学校(双葉)」の再生。小中学校長がおっしゃっていました。「スピード」とよろしくをお願いします。</p>
高野 重紘	<p>* 新生双葉地区(町)を造る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 放射線量が多く帰れない人 ○ 放射線量が心配で帰らない人 <p>これらの人達の為に私達は国の原発政策の犠牲になったので、関東地区(加須市でも良いと思う)に国策により住む場所を提供していただき、子供、孫達が安心して生活でき、学校生活そして就職ができる所を確保してほしい。</p>	
中村 希雄	<p>* 「双葉を想い出せる空間(コミュニティ)」</p>	<p>一気に新町双葉は創成できないのだから、とにかく一カ所双葉コミュニティを作る。移動したい家族を順次受け入れて成長させていく。</p> <p>他の避難地域で生活している家族は各自の判断で現状の地所に住み続けられれば良い。双葉役場機能についても今のままで不便と感しない。</p>